

札
ノ
辻
遺
跡

多可郡多可町

札ノ辻遺跡

- (一) 安田川県単独河川改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告 -

兵庫県文化財調査報告
第416冊

兵庫県教育委員会

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

多可郡多可町

札ノ辻遺跡

—(一) 安田川県単独河川改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

例　　言

1. 本書は、兵庫県多可郡多可町西安田に所在する札ノ辻遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査ならびに整理作業は、兵庫県社土木事務所中町出張所（現兵庫県北播磨県民局加東土木事務所多可事業所）の依頼を受けて発掘調査を兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が、出土品整理作業を兵庫県立考古博物館が実施した。
3. 調査は、平成8年度から9年度の延べ2カ年にわたりて実施した。それぞれの調査の実施年度および遺跡調査番号は下記の通りである。

確認調査	平成8年度	遺跡調査番号	(960381)
本発掘調査	平成9年度	遺跡調査番号	(970171、970185)
4. 本書において遺跡名は「札ノ辻遺跡」としているが、兵庫県遺跡地図では「西安田・札ノ辻遺跡」と改称されている。本書では調査当時の名称をそのまま使用している。
5. 本書において使用した方位は、旧国土地標V系を基準にし、水準は東京湾平均海水準（T・P）を使用した。また、方位は座標北を指す。
6. 本書の挿図の第1図、第2図は、国土地理院発行の5万分の1「生野」を使用した。第3図は2万5千分の1「中村町」を兵庫県教育委員会発行の兵庫県遺跡地図をもとに作成した。
7. 遺物実測図については、断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器、断面を白ヌキのものは土師器をそれぞれ示している。
8. 土層などの色調は小山田正忠・竹原秀雄編著『新版 標準土色帖』1992年版を使用した。
9. 本書の構造写真は、調査担当者が、遺物写真は株式会社地域文化財研究所に委託して撮影を行った。
10. 本書にかかる出土遺物・写真などの関係資料は、兵庫県立考古博物館および、兵庫県立考古博物館魚住分館にて保管している。
11. 本書の編集は、加藤裕美の補助を得て岡本が実施した。執筆分担は目次に示した通りである。第4章の樹種同定は株式会社古環境研究所に分析を依頼した。
12. 現地調査、整理作業の際には、下記の方々にご指導、ご教示、ご援助をいただいた。記して感謝いたします。

中町教育委員会（当時）、宮原文隆

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	(図本)	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2節 確認調査の経過		1
第3節 本発掘調査の経過		1
第4節 整理作業の経過		2
第2章 遺跡をとりまく環境	(図本)	3
第1節 地理的環境		3
第2節 歴史的環境		4
第3章 札ノ辻遺跡の調査	(図本)	7
第1節 確認調査の概要		7
第2節 本発掘調査の概要		7
第3節 遺物		9
第4章 自然科学分析 札ノ辻遺跡における樹種同定	(株式会社古環境研究所)	11
第5章 まとめ	(図本)	13
第1節 遺構について		13
第2節 遺物について		13
第3節 考察		13

挿図目次

第1図 遺跡の位置 (日本全国・全県・市域・周辺)	iii
第2図 多可町周辺の地形図	3
第3図 周辺の遺跡	6
第4図 札ノ辻遺跡の木材	12
第5図 出土木製品	12

表目次

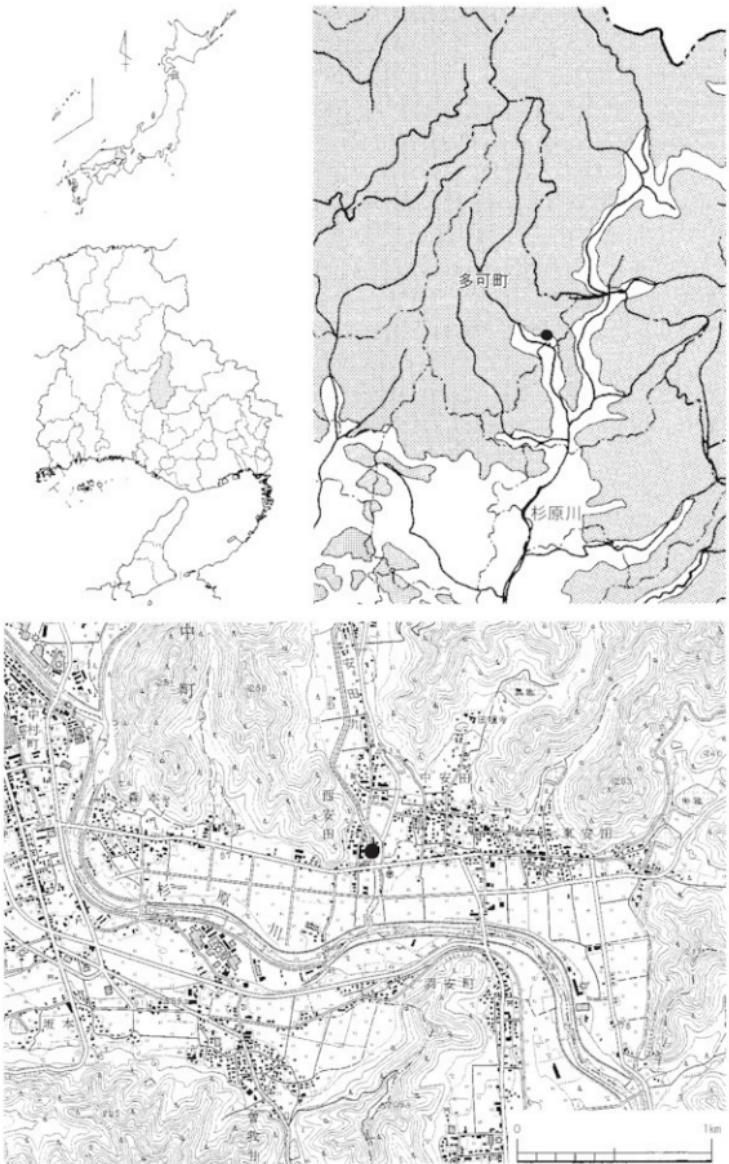
第1表 周辺の遺跡	6
第2表 出土遺物観察表	14

図版目次

- 図版 1 札ノ辻遺跡周辺図(1:2500)
- 図版 2 確認調査 トレンチ位置図(1:500)
- 図版 3 調査グリッド土層断面図及び平面図(1:50)
- 図版 4 調査区位置図(1:250)
- 図版 5 1区全体・土層断面図
- 図版 6 2区全体・土層断面図
- 図版 7 3区全体・土層断面図
- 図版 8 出土遺物

写真図版目次

- 写真図版 1 遺跡の位置（航空写真）
- 写真図版 2 1区 調査前（北から）
 - 調査後（北から）
 - 調査後（南から）
- 写真図版 3 1区 SD01・土坑（南から）
 - SD03（西から）
 - ピット（西から）
- 写真図版 4 2区 調査前（南から）
 - 調査風景（北から）
 - 調査後（南から）
- 写真図版 5 3区 調査前（南から）
 - 調査風景（南から）
 - 調査後（南から）
- 写真図版 6 3区 調査後（北から）
 - 段丘面（南東から）
 - 旧河道（南東から）
- 写真図版 7 出土遺物（1）
- 写真図版 8 出土遺物（2）



第1図 遺跡の位置（日本全図・全県・市域・周辺）

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

兵庫県社土本事務所（当時）より、多可郡中町西安田地区の安田側橋梁及び可動堰設置工事に伴う確認調査の依頼（平成8年12月10日付・社土第2563号）があり、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所（当時）が事業予定地内の埋蔵文化財の調査を実施した。

隣接地が周知の遺跡であるため、当該地区も遺跡が存在することは予想されたが、河川の氾濫による流失も考えられるため遺構もしくは遺物包含層の有無について確認調査を実施することになった。

第2節 確認調査の経過

確認調査（平成8年度） 遺跡調査番号960381

調査担当者 調査第2班 吉田 異

岸本 一宏

調査期間 平成8年12月18日～12月19日

調査面積 24m²

調査結果 河川の両岸に約20m間隔でグリッドを設定した。グリッド1は旧安田川堤防部分に当たり、グリッド2も礫を多量に含む層で遺構、遺物は検出できなかった。グリッド3では厚さ55～50cmの遺物包含層が検出され上方からは中世の、下層からは奈良時代の土器が出土した。包含層下層の黄褐色粘土の地山を切り込む形で柱穴、土坑が検出された。グリッド4も同様に遺物包含層の下に砂質土の地山となっており、溝、柱穴を検出した。グリッド5は褐色系の地山面より土坑等の遺構が検出された。グリッド6の最下層は砂礫層であるがその上面から溝状遺構を検出した。包含層及び溝の埋土から中世の土器が出土した。

第3節 本発掘調査の経過

本発掘調査（平成9年度） 遺跡調査番号970171

前記の確認調査（遺跡調査番号960381）の結果を受けて兵庫県社土本事務所より平成9年5月12日付け、社土第445号で依頼があり、全面調査を実施した。調査は1区、2区、3区の3地区に分け（図版4参照）実施した。

調査担当者 調査第3班

主　　査　　西口　圭介

主　　査　　篠宮　正

技術職員　　岡本　一秀

臨時の任用職員　野村　展右

調査期間　　平成9年5月19日～5月21日

平成9年6月9日～6月13日

調査面積　　276.6m²

調査結果　　第3章参照

第4節 整理作業の経過

出土遺物の整理作業は、平成23年度に兵庫県立考古博物館と魚住分館において実施した。

接合・補強・復元・実測・写真撮影・分析を実施。写真撮影は株式会社地域文化財研究所に委託した。

整理担当職員

整理保存課 主査 岡本 一秀

主査 鍛宮 正

調査第2課 主査 西口 康介

非常勤嘱託員 主任技術員 真子ふさ恵

企画技術員 三好 綾子

図化技術員 加藤 格美

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

札ノ辻遺跡は、兵庫県中央部の多可郡多可町中区に所在する。

多可町の沿革は、明治22年4月1日の市町村制施行により多可郡中村が誕生し、大正13年4月1日には町制が施工され中町になり、さらに平成17年11月1日に多可郡加美町と中町、八千代町が合併して多可町となり現在に至っている。

多可町の町境は、北を朝来市、丹波市と東を丹波市と南を西脇市と加西市、西を神崎郡神河町、市川町とそれぞれ接している。町の東西は約13km、南北は約30km、総面積は185.15km²である。旧中町は多可町の中央に位置する。

多可町の地勢は、町域の約8割が中国山地へと続く山塊により占められている。町の北側には標高692.6mの妙見山、さらにその奥には標高1005.2mの千ヶ峰、西側には標高939.4mの笠形山、標高780.2mの入相山、標高900.7mの飯森山など600～1000m級の山が連なっている。町内を流れる主な河川は、すべてが加古川水系に属している。三国岳を源流とする杉原川は、町域の加美区、中区東側を蛇行しながら貫流し、東隣



第2図 多可町周辺の地形図（1／100,000）

の西脇市内で県内最大の流域面積と長さを誇る加古川と合流している。杉原川支流の安田川は、石金山山麓を源流として西流し、浅香山山麓で南流し安田の集落の南側で杉原川に合流している。笠形山を源流とする野間川は、八千代区の中央を流れて西脇市に入り、加古川と合流している。町内の平野部は杉原川が形成した幾つかの谷底盆地からなる。上流側より北部平野、中央平野、安田平野と呼称されている。

主な交通路は杉原川沿いに青垣町大名草方面から西脇市西脇方面へ南北に継貫する現国道427号線のルートの他、東側は東安田から黒田庄町石原方面につながるルート、思い出川上流から小野沢峠を経て山南町富田方面へつながるルート、西側は山野部から八千代区門田方面を経て野間川水系沿いに抜けるルート、加美区的場から高坂峠を経て神崎町岩屋の市川水系越智川沿いに抜けるルートがある。古代から現在に至るまで兵庫県内で瀬戸内海側と日本海側を結ぶ主なルートとして加古川、由良川水系のルートと市川、円山川水系のルートがある。多可町はそれらの水系のルートを東西に結びつけるルートの1つに位置している。

札ノ辻遺跡は安田平野の北側の安田川を杉原川の合流地点から北へ0.3km上流に遡った標高86mの地点に立地する。

第2節 歴史的環境

旧中町域を中心とした多可町域の各時代の遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡、遺物は、現在のところ確認されていない。

縄文時代の早期から前期の遺跡は確認されていないが、安楽田・夫婦岩遺跡、思い出遺跡、貝野前遺跡、市原・寺ノ下遺跡からは早期の撫糸文土器、押型文土器が出土している。また、曾我井・野入遺跡からはチャートを原料とする石材が出土している。

縄文時代中期の遺跡としては、熊野部遺跡から住居跡が検出された。

縄文時代後期になると思い出遺跡からは溝から多量の土器が出土している。貝野遺跡からは炭化種子が充満した土坑が検出されている。

晩期では、貝野前遺跡で遺構が確認されている。また市原・寺ノ下遺跡では竪穴住居跡や大量の土器が検出されている。

弥生時代前期の遺跡は、坂本・土井の畠遺跡で溝が確認されている。鍛冶屋・下川遺跡や多可寺遺跡、奥中・三内遺跡、穂屋・土井の後遺跡、穂屋の堀内遺跡では少量ながら土器が出土している。中期前半になると熊野部遺跡では竪穴住居跡が、安坂城の堀遺跡では溝が確認されている。中期後半になると安坂城の堀遺跡や思い出遺跡、宮ヶ谷遺跡、長坂谷遺跡、穂屋祇園神社遺跡、穂屋・土井の畠遺跡、穂屋北縄手遺跡からは集落跡が検出されている。後期後半では、安坂城の堀遺跡や思い出遺跡が引き続き集落が営まれるが、そのほかの集落は消滅する。安楽田・夫婦岩遺跡、鍛冶屋下川遺跡などがある。後期後半からは庄内期になると豊部・井杉遺跡、三谷丁田遺跡、片瀬遺跡、保木遺跡など確認される遺跡数が増える。

古墳時代に入ると再び遺跡数が減少する。前期から中期では思い出遺跡、鍛冶屋遺跡、安坂城の堀遺跡、西安田・宮ヶ谷遺跡、豊部井杉遺跡などで遺跡が確認される。地域の首長墓である前方後円墳や前方後方墳は確認されていないが、前期から中期にかけてと推定される円墳、方墳は確認されている。そのうち発掘調査が行われたのは方墳の岡山1・2号墳で竪穴式石室4其、箱式石棺1其が検出されている。後期に入って確認できる遺跡は、安坂・北山田遺跡のみである。古墳は妙見山山麓古墳群がある。築ヶ鼻、門前西、門前東、女夫岩、安楽田、妙見、村東山、東山、田野口、牧野、入角山南、入角山中、入角山北古墳群の13の支群によって構成されている。終末期には遺跡数が増える。杉原川左岸においては思い出遺跡、鍛冶屋遺跡、牧野大日遺跡、貝野前遺跡などがみられる。西安田・森ノ前遺跡、円満寺・東ノ谷遺跡では7世紀後葉の土

器が多数出土している。

律令期になると多可郡は荒田、加美、那珂、資母、黒田、蔓田の6郷からなる下郡として「和名類聚抄」に記されている。

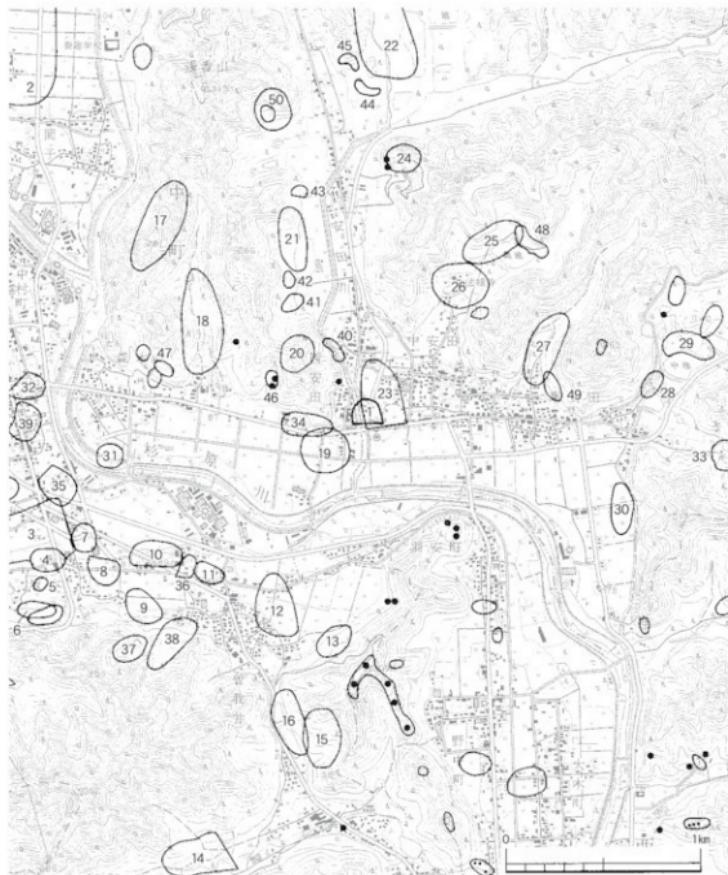
奈良から平安時代にかけての遺構は、北部平野で古代寺院である多哥寺や官衙の可能性がある思い出跡、牧野大日遺跡がある。西安田・森ノ前遺跡、円満寺遺跡、円満寺東の谷遺跡で遺物が出土している。西安田・森ノ前遺跡では奈良時代以降の土器が多く出土しており、この時期の安田平野の中心となる遺跡と考えられる。円満寺遺跡、円満寺東の谷遺跡では寺院に関連する遺物の出土がみられ、周辺に平安時代前半に遡る寺院の存在が確認されている。農部井杉遺跡では、円面鏡や綠釉陶器、掘立柱建物が検出されている。西安田・森ノ前遺跡では確認調査時に石帶（巡方）が出土している。

平安時代後期の院政期には高田、中村、曾我部、安田、野間の5郷からなる多可郡安田庄は鳥羽院領であったが、後に平氏や若狭局（平政子）の莊園として伝領される。建久3（1192）年には京都の尊勝寺及び蓮華王院（三十三間堂）の莊園となり、建保年間（1213）以降は青蓮院領になっていた。

平安時代から中世にかけては、遺跡の数が増加する。安田平野で確認されているのは円満寺周辺の山中に広がる遺跡群と法幢寺周辺の遺跡群である。円満寺東の谷遺跡では小鍛治と銅製品鋳造遺構が検出された。西安田・森ノ前遺跡では、梵鐘鋳造遺構が検出されている。いずれも、円満寺や法幢寺といった宗教施設と関連した生産施設の遺構が確認されている。また、西安田、中安田、東安田の各谷にはそれぞれ中世墓が分布している。

【参考文献】

- 神崎勝 1989 「加古川流域の古代史（上・中流篇）」
中町史編集委員会 1991 「中町史」
中町教育委員会 2000 「思い出遺跡群Ⅱ」中町文化財報告22
多可町教育委員会 2011 「西安田・森ノ前遺跡 中安田・法幢寺遺跡」 多可町文化財報告14
兵庫県教育委員会 2010 「茂利・宮の西遺跡」 兵庫県文化財調査報告 第370冊



第3図 周辺の遺跡

1 札ノ辻遺跡	2 思い出遺跡	3 梶屋・土井の後遺跡	4 坂本・土井の内遺跡
5 坂本・谷遺跡	6 坂本中世墓群	7 坂本・土井畠遺跡	8 坂本・丁田遺跡
9 曽我井・山田遺跡	10 曽我井・沢田遺跡	11 曽我井・堂ノ元遺跡	12 曽我井・野入遺跡
13 曽我井1~3号墳	14 徳部野遺跡	15 徳部野1~18号墳	16 曽我井逆池遺跡
17 森本城	18 森本1~5号墳	19 西安田・岩・鼻遺跡	20 西安田城
21 西安田・カマリ谷遺跡	22 西安田長野遺跡	23 西安田長野遺跡A地点	24 西安田1・2号墳
25 中安田1~6号墳	26 法鐘寺遺跡	27 滝ヶ谷池遺跡	28 東安田1~5号墳
29 東安田中池遺跡	30 東安田・ヒダイ遺跡	31 森本近世墓	32 森本・上島原遺跡
33 善光寺遺跡	34 西安田・山根遺跡	35 梶屋・里の垣内遺跡	36 曽我井・瓜生遺跡
37 曽我井・スズヶ谷遺跡	38 曽我井・大谷遺跡	39 森本・村の内遺跡	40 西安田・イヤガ谷遺跡A
41 西安田・宮跡遺跡	42 西安田中世墓群	43 西安田西窯跡	44 西安田・錢龜遺跡
45 西安田東窯跡	46 塚ヶ谷1~2号墳	47 森本中世墓群	48 中安田奥池遺跡
49 東安田中世墓群	50 西安田西2~5号墳		

第1表 周辺の遺跡

第3章 札ノ辻遺跡の調査

第1節 確認調査の概要

札ノ辻遺跡は、安田川が開析する小谷の出口にあたり、東側は台地、西側は南北に伸びる山塊の裾になっている。安田川は調査地点から約300m南で杉原川に合流する。事業予定地内の川の両側に約20m間隔で2m四方のグリッドを6箇所設定し、バックホーにより耕土・床土を除去した。

グリッド1

旧安田川の堤防部分にあたる。礫を大量に含む地層で、河川を埋めた立てた状況である。

グリッド2

旧安田川の堤防部分にあたる。グリッド1と同様に礫を大量に含む地層で、河川を埋めた立てた状況である。

グリッド3

厚さ約30～50cmにわたって黒褐色系の遺物包含層が認められた。包含層の上層からは中世の、下層からは奈良時代の土器が出土した。包含層の下層には黄褐色の粘質土があり、この層を切り込む形で以降が検出された。

グリッド4

厚さ約40cmの遺物包含層が認められ、その下層は地山となっているが、地山はグリッド3に比べると砂質が多い。

グリッド5

現水田面が周囲より1段高い。柱穴、土坑が褐色系の地山面から検出された。

グリッド6

砂礫層上面で溝状遺構を検出した。湧水のため遺構の平面の検出は難しかったが、幅40～80cm、深さ20cmであると推測される。溝埋土及び包含層から中世の土器が出土した。

第2節 本発掘調査の概要

調査区は確認調査の結果に基づき、安田川を挟んで里道の南東部を1区、北東部を2区、北西部を3区と設定した。調査はバックホーにより水田の耕土、床土を取り除いた後、人力で遺構面までの掘削と精査を行い、遺構の検出を行った。検出した遺構は、平板による測量と写真による記録をとった。また、壁面の土層堆積状況の記録も取った。

1区の遺構

1区では、調査区北端付近で東西方向に伸びる流路跡（SD01）を検出した。また、調査区中央付近では土坑1基と時期不明の搅乱坑を検出した。調査区南側では、奈良時代の須恵器が入った溝2条（SD02、03）と時期不明のピット2穴を検出した。

流路

SD01（図版5、写真図版3）

検出状況 磯層下の黄灰色中砂層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、西側の安田川側に開いている。

出土遺物 遺物は出土していない。

S D 0 2 (図版 5、写真図版 2)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、東側が開く形状である。

出土遺物 奈良時代の須恵器甕 (11) が出土した。

S D 0 3 (図版 5、写真図版 3)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、東側が開く形状である。

出土遺物 奈良時代の須恵器甕 (13) が出土した。

土坑 1 (図版 5、写真図版 3)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 長さ140cm、幅100cmの隅丸の橢円形を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

柱穴

ピット 1 (図版 5、写真図版 3)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 ほぼ円形で、直径40cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

ピット 2 (図版 5、写真図版 3)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 ほぼ円形で、直径10cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

2 区の遺構

2区では、調査区中央部で北東から南東方向に流れる旧河道 (SD04) を検出した他は、明確な遺構は確認できなかった。

流路

S D 0 4 (図版 6)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、東側が開く形状である。

出土遺物 須恵器高環 (15)、甕 (16)、楕 (17)、土師器皿 (18)、弥生土器高环 (19) が出土している。

3 区の遺構

3区は西側より段丘面を検出した。東側からは北から南へ流れる旧河道を検出した。

段丘面 (図版 7、写真図版 5、6)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、東側が開く形状である。

出土遺物 丹波焼の甕 (21) が出土した。

旧河道 (図版 7、写真図版 5、6)

検出状況 最下層の灰褐色シルト層の下から検出した。

形状・規模 東西方向に伸びており、東側が開く形状である。

出土遺物 奈良時代の須恵器甌（20）が出土した。

第3節 遺物

全体の概要

出土した遺物の時期は、弥生時代、古墳時代、奈良時代、中世に分けられる。全体の出土量の中でも奈良時代の遺物がその大半を占め、古墳時代の遺物が後に次ぐ。土器は全体的に須恵器の割合が多い。

1. 土器

弥生時代の土器

壺（9）

壺の底部と考えられる。2区の旧河道の埋土の黒褐色シルト層から出土している。

高坏（19）

19は高坏の脚部である。円形の透かし孔をもつ。

古墳時代の土器

須恵器

高坏（4、15）

4は、坏部の底部しか残存していない。内面に直径1cmの棒状の道具でついた痕跡が残る。15は、底部と脚部の一部である。脚部に方形の透かしをもつが透かしの数は不明である。

坏（8、13）

8は坏の底部の一部であるとみられるが、横瓶の一部の可能性も考えられる。13は坏の底部の一部である全体に摩滅しており、調整は不明である。

奈良時代の土器

須恵器

坏A（7、10）

7は、底部と体部の一部である。全体に摩滅しており、調整は不明である。10は底部と体部の一部である。全体に摩滅しており、調整は不明である。

坏B蓋（5、12）

5は、蓋のつまみである。12は、蓋のつまみである。つまみの形状は扁平である。

坏B（6）

6は、底部のみが出土した。高台は外側に踏ん張るタイプである。

椀（17、20）

17は底部の一部である。底にヘラ切り痕を残す。20は底部の一部である。底に糸切り痕を残す。

鉢（2、22）

2は玉縁状の口縁の一部である。22は口縁の一部である。

壺（3、14）

3は長頸壺の底部である。丸みを帯びた体部に外側に踏ん張るタイプの脚部を持つ。14は、底部のみが出土した。高台の底部も欠損している。

土師器

甕（1）

1は甕の口縁部である。調製は外面が横ナデ、内面にタタキ痕が残る。

皿（18）

18は皿の一部である。全体に摩滅しており、調整は不明である。

中世の土器

丹波焼

甕（21）

体部の一部が出土した。

木製品

棒状製品（W1）

1区の上層、褐色粗砂～繰混じり層の間から出土した。長さ13.9cm、幅1.2cm、最大厚0.7cmを測る。両端は欠いており用途は不明であるが、何らかの柄であった可能性がある。

第4章 自然科学分析

札ノ辻遺跡における樹種同定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、札ノ辻遺跡より出土した木材1点である。時期は不明である。

3. 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

同定の結果、試料はマダケ *Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc.であった。以下に同定根拠となつた特徴を記し、各断面の顕微鏡写真を図版に示す。

マダケ *Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc. イネ科

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周間に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が棹軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科Bambusoideaeの材に同定され、復元径が8cm以上になり、節の部分が2段になっていることから、マダケに同定される。マダケは本州、四国、九州、沖縄に分布し、高さ20m、直径5～15cmである。伸縮性が小さく、物差し、尺八、提灯や傘の骨、熊手などに用いられる。

5. 所見

札ノ辻遺跡の木材は、マダケであった。マダケは、弾力性に富み程が肉厚で強靭な材である。温暖な地域を好んで生育する。当時遺跡周辺に生育していたと推定される。

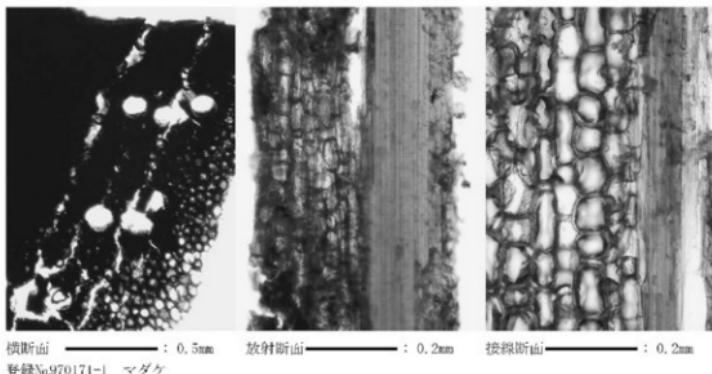
〔参考文献〕

佐伯 浩・原田 浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

佐伯 浩・原田 浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100.

島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242.



第4図 札ノ辻遺跡の木材



第5図 出土木製品

第5章　まとめ

第1節　遺構について

今回の調査では、1区で奈良時代の溝を検出した。

1区では東西方向に伸びる奈良時代の溝2本とピットが存在する。2、3区は安田川の旧河道であったが、堆積を繰り返して最終的には中世に埋没している。その後、1区の北側で東西方向に伸びる流路が形成されるが、それもやがて埋没して水田が形成され、現在に至っている。

第2節　遺物について

今回出土した遺物はすべて破片で、1個体が復元できたものはない。また、破片の割れ口が摩耗しており、他所から流入したものと考えられる。札ノ辻遺跡近辺の弥生時代の遺跡は、西側に西安田・岩ヶ鼻遺跡が、北側には西安田・森ノ前遺跡が接しており、土器はそこから流入した可能性がある。古墳時代から奈良時代の遺物は、西安田・森ノ前遺跡から出土しており、そちら側から流入してきた可能性が考えられる。

第3節　考察

札ノ辻遺跡は、安田川により開拓された谷の出口に立地している。安田川流域で縄文から弥生時代にかけての時期の遺跡は、上流域に分布しており、この頃は谷の出口に立地する札ノ辻遺跡周辺の扇状地形がまだ安定した土地ではなかったと考えられる。周辺に遺跡が認められるようになるのは奈良時代以降である。1区で奈良時代の遺物が入った溝を検出したことも、この時期に札ノ辻遺跡の立地する場所が安定していたことを物語っている。しかし、その後は再び河川の流路となる時期が続き、現在の流路に安定していく中世以降に水田として利用されるようになったと考えられる。

周辺では、杉原川の対岸1km南西には奈良から鎌倉時代にかけての水路から人形、齊串、呪符、『宗我西』、『中家』等の墨書き土器が出土している曾我井・沢田遺跡があり、このあたりが奈良時代に宗我部を名乗る人々の拠点集落があったと考えられている。また、西安田・森ノ前遺跡では石帶が出土しており、谷の奥部の寺院跡もふくめて奈良から平安時代にかけての安田平野の様相の解明がまたれる。

報告番号	種別	器種	法量				既存	備考	出土情報			
			口径	器高	底径	長さ			口縁	底	他	地区
1	土器	甌	19.60	4.60					1/18			2区 包含層
2	須恵器	鉢	27.00	3.50					1/18			2区 包含層
3	須恵器	壺		6.70	9.80					2/9		2区 包含層
4	須恵器	高环		2.40								埋土
5	須恵器	坏B	1.00			2.75			つまみほほ完存			礫の上黒褐色シルト
6	須恵器	坏B	1.25	9.50					1/7			礫の上黒褐色シルト
7	須恵器	坏A	2.30	9.00					1/7			暗灰色シルト層上の礫混層
8	須恵器	坏	1.75	6.80					完	横瓶の可能性も		礫の上黒褐色シルト
9	弥生土器	壺	4.50	5.00					2/7			礫の上黒褐色シルト
10	須恵器	坏A	2.15	7.80					1/5			埋土
11	須恵器	甌	14.15							体部破片		暗灰色粗砂混シルト
12	須恵器	坏B	1.35			3.20			つまみ1/2強			埋土
13	須恵器	坏	2.00	5.90					1/4			1区 SD03 暗灰色礫混細砂
14	須恵器	壺	2.90						底部付近1/3強			2区 SD04 埋土
15	須恵器	高环	4.50						器柱上部2/5			2区 SD04 包含層 埋土
16	須恵器	甌	21.50	5.20					1/7弱			2区 SD04 包含層 埋土
17	須恵器	碗	1.35	5.20					4/9			2区 SD04 埋土
18	土器	Ⅲ	17.00	2.60					1/18			2区 SD04 埋土
19	弥生土器	高环	6.60							脚部破片		2区 SD04 包含層 埋土
20	須恵器	碗	1.85	5.10					2/7			3区 埋土
21	陶磁器	甌			7.20	1.00	5.70		小片	丹波焼	3区 砂層	
22	須恵器	鉢	24.90	2.20					1/25		3区 砂層	

第2表 出土遺物観察表

報告書抄録

ふりがな	ふだのつじいせき								
書名	札ノ辻遺跡								
副書名	(一) 安田川県単独河川改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告								
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告								
シリーズ番号	第416冊								
編著者名	西口圭介、森宮正、岡本一秀								
編集機関	兵庫県立考古博物館								
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 TEL 079-437-5589								
発行年月日	2012(平成24)年3月26日								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査種別	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号						
札ノ辻遺跡 (西安田・札ノ辻遺跡)	兵庫県 多可郡 多可町 中区 西安田	283657	260329	35度 2分 27秒	134度 56分 46秒	確認調査 本発掘調査	1996.12.18 ~12.19	24m ²	(一)安田川県 単独河川改良 事業に伴う
						平成14年 5月21日 ~ 平成14年 8月6日	1997.5.19 ~5.21		
							1997.6.9 ~6.13		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
札ノ辻遺跡	集落	弥生時代 奈良時代 中世		溝、土坑、柱穴		弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器			
要約	札ノ辻遺跡では、奈良時代の溝が検出された。土器は弥生土器、古墳時代の須恵器、土師器、奈良時代の須恵器、中世の丹波焼が出土した。								

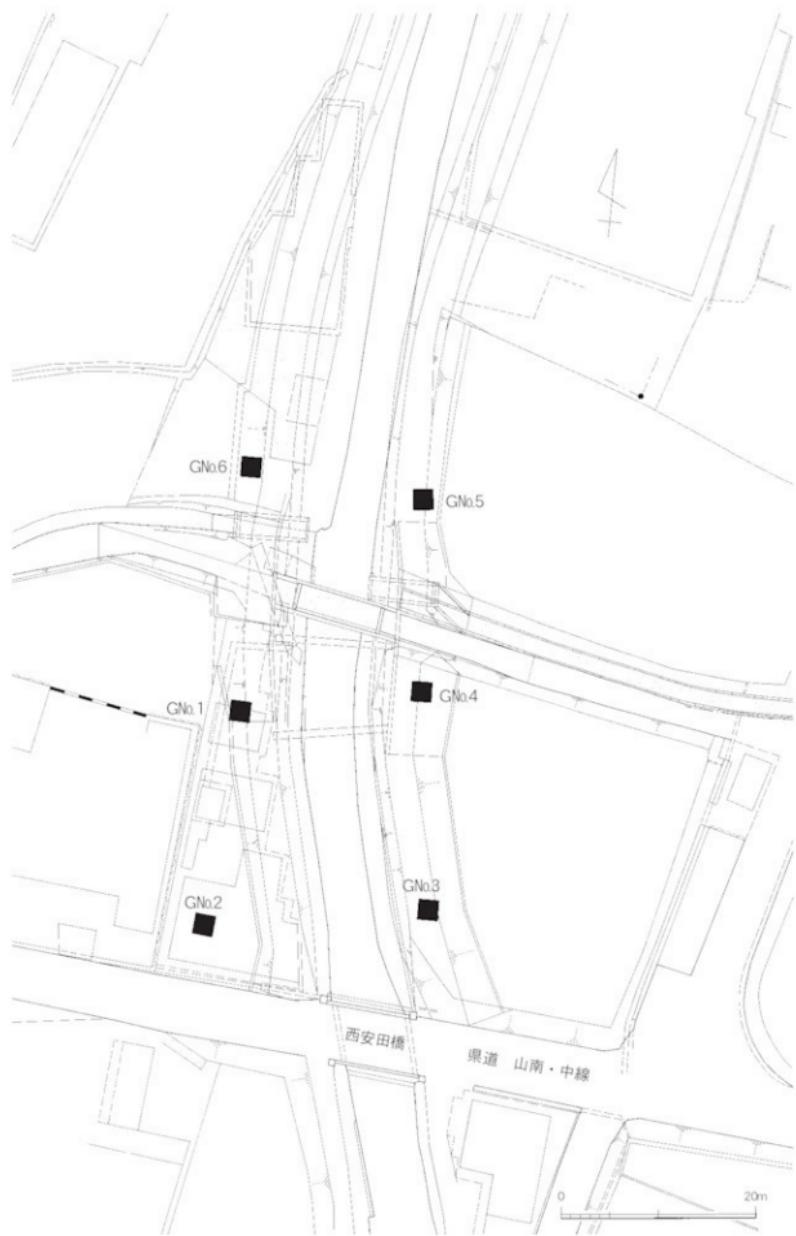
*緯度・経度は平成14年4月1日施行の測量法改正による世界測地系にもとづく値である。

図 版

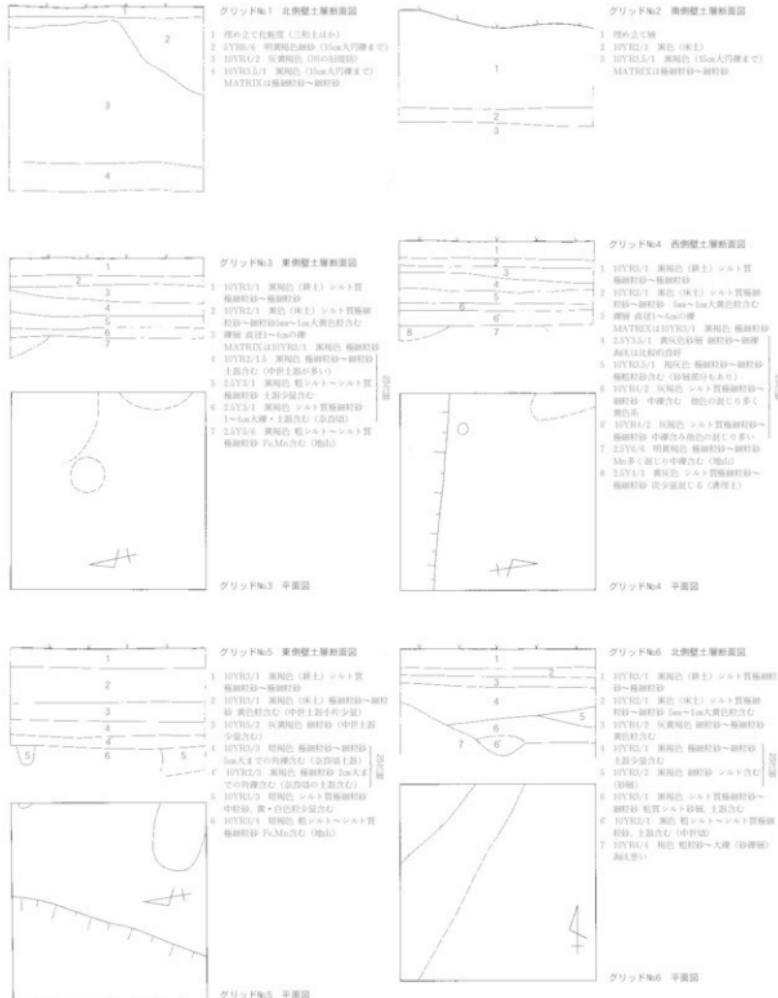


札ノ辻遺跡周辺図(1:2500)

図版 2

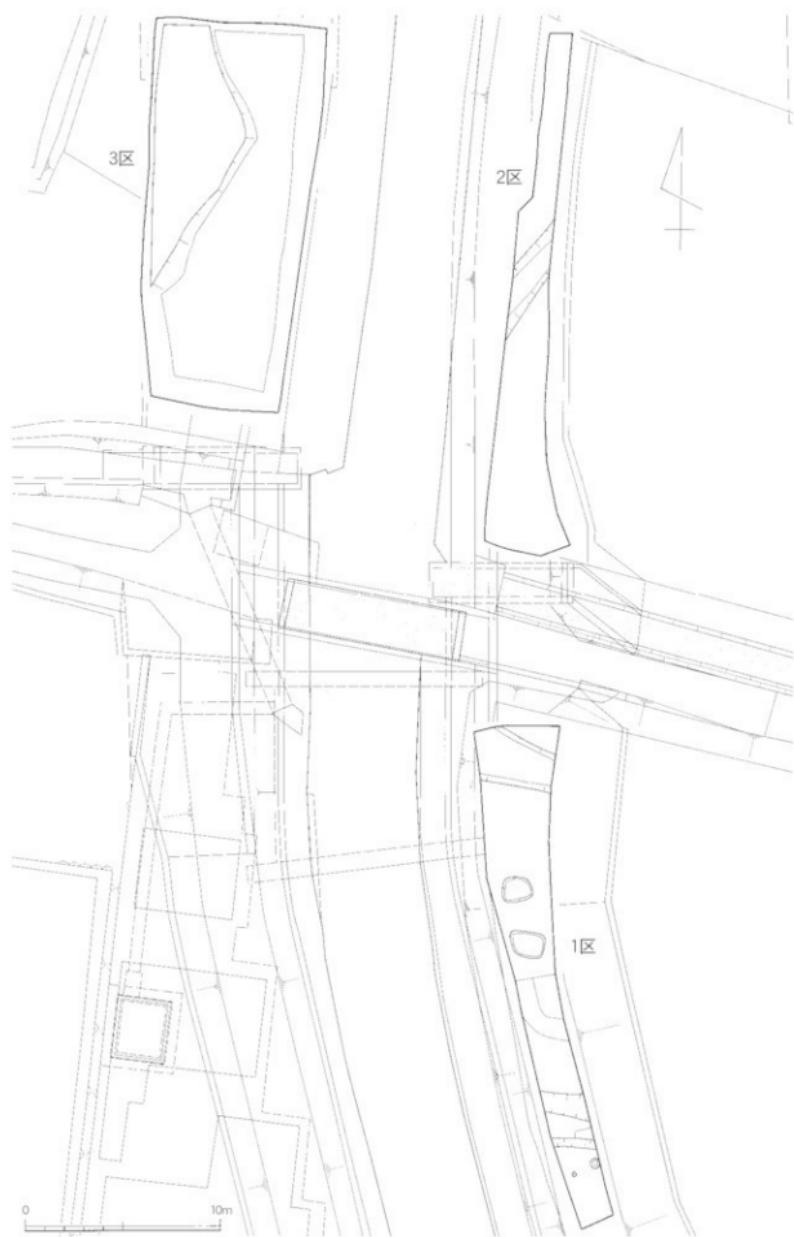


確認調査 トレンチ位置図(1:500)

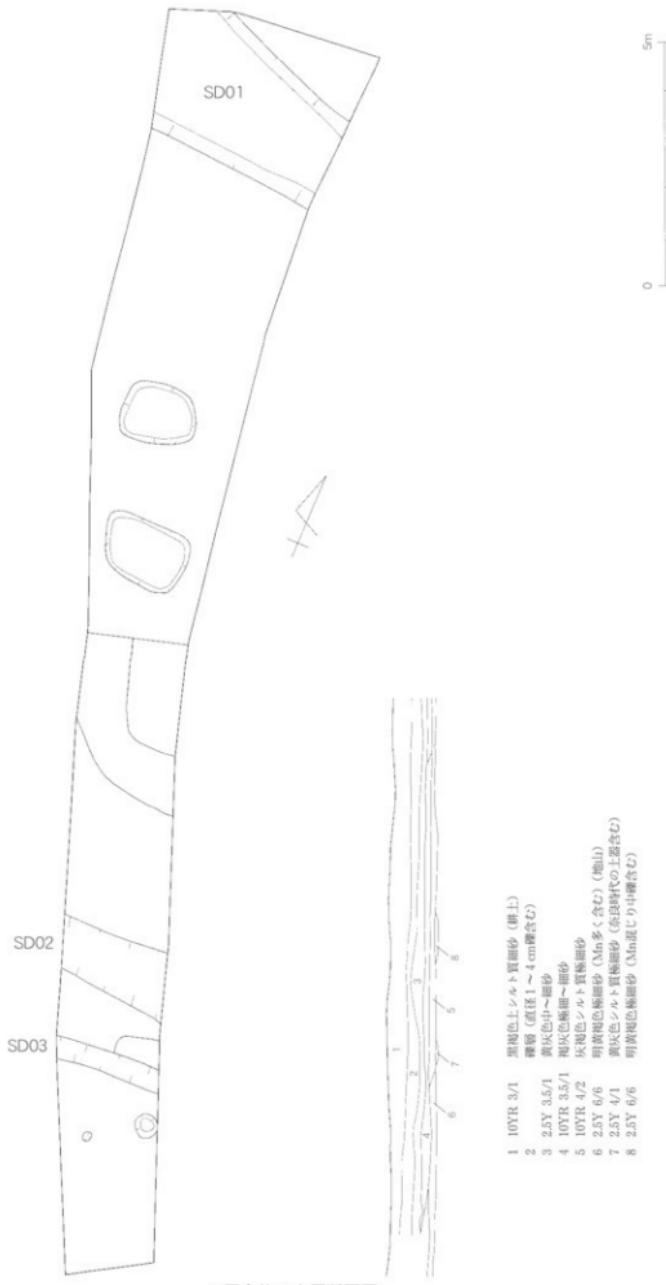


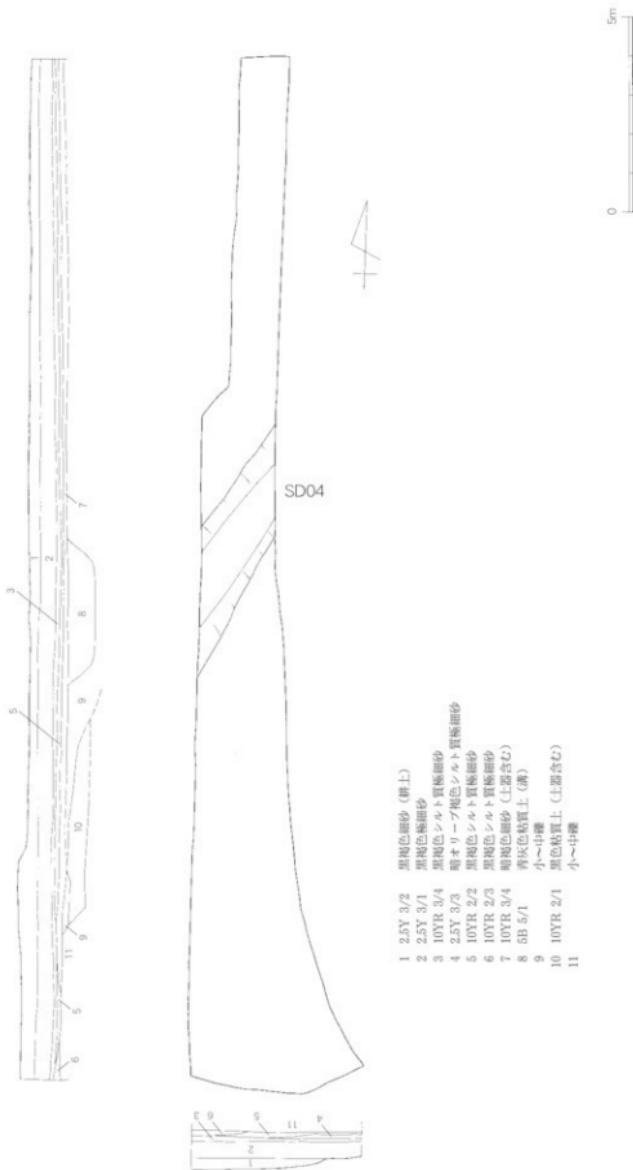
調査グリッド土層断面図及び平面図(1:50)

図版 4

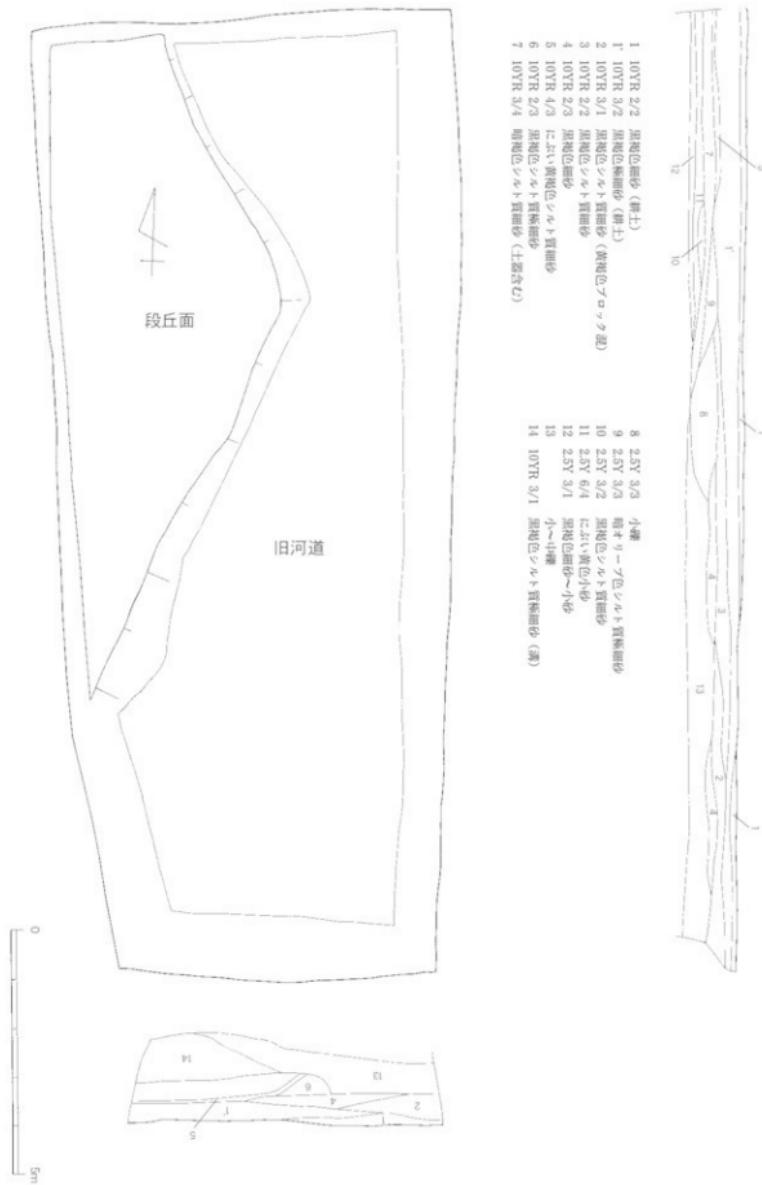


調査区位置図(1:250)





2区全体・土層断面図

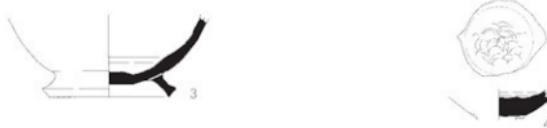


3区全体・土層断面図

図版8

2区

包含層

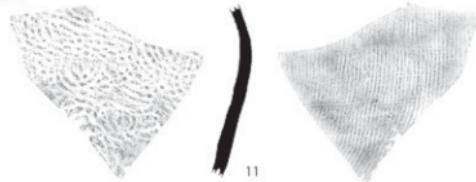


1区

SD01



SD02

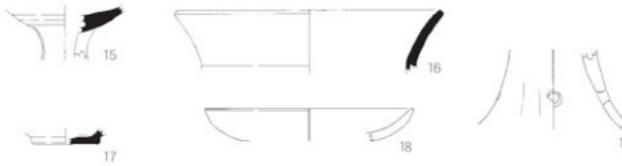


SD03



2区

SD04



3区



出土遺物

写 真 図 版



遺跡の位置（航空写真）

写真図版 2

1区



調査前（北から）



調査後（北から）



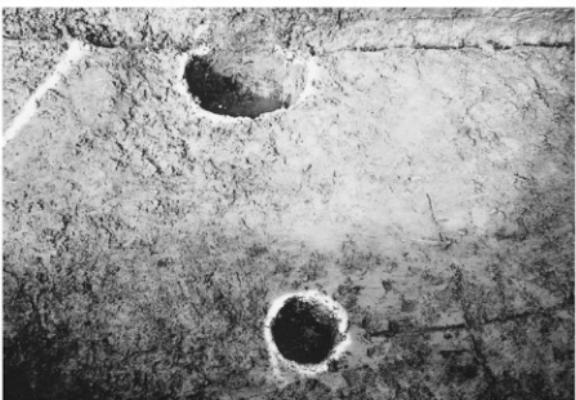
調査後（南から）



SD01・土坑（南から）



SD03（西から）



ピット（西から）

写真図版 4

2 区



調査前（南から）



調査風景（北から）



調査後（南から）



調査前（南から）



調査風景（南から）



調査後（南から）

写真図版 6

3 区



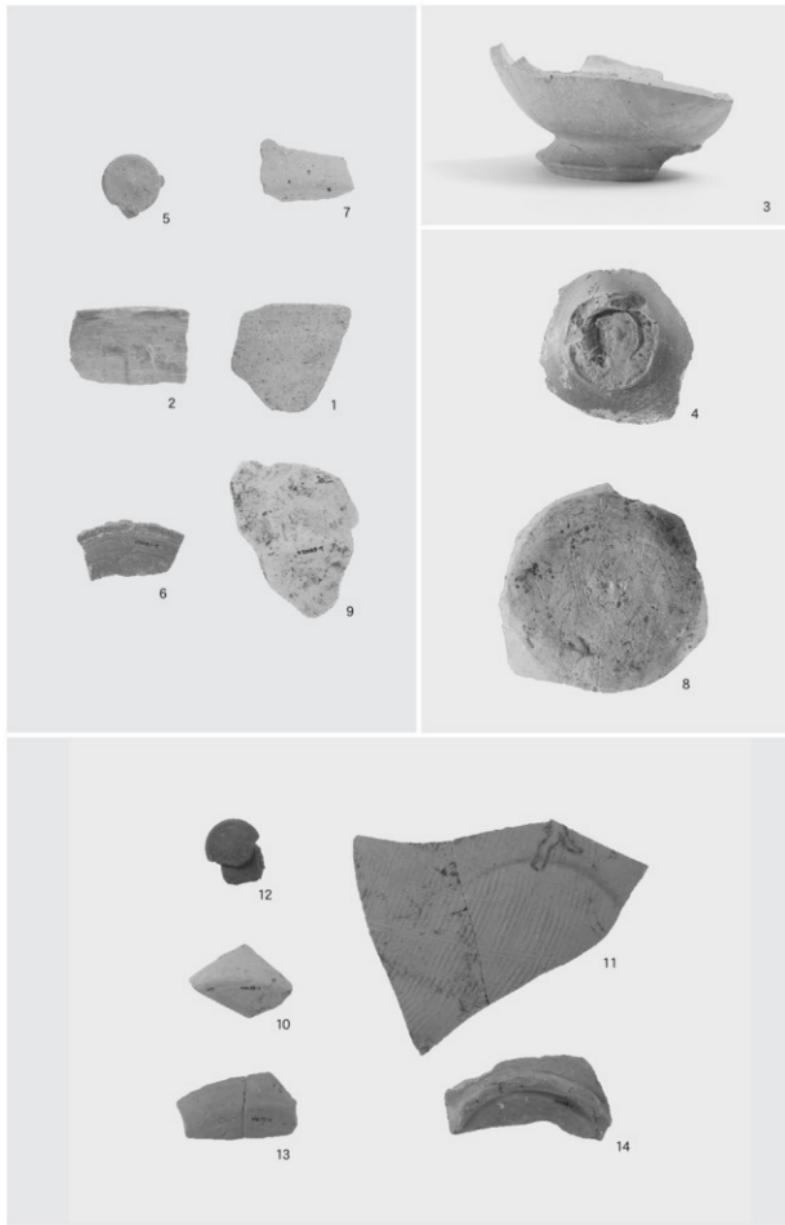
調査後（北から）



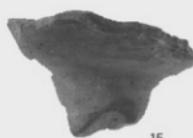
段丘面（南東から）



旧河道（南東から）



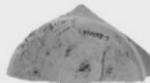
出土遺物（1）



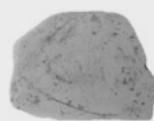
15



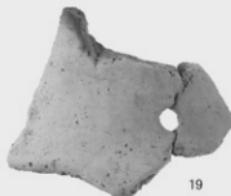
16



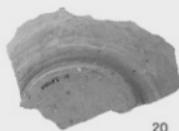
17



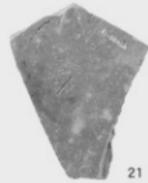
18



19



20



21



22

兵庫県文化財調査報告 第416冊

札ノ辻遺跡

—(一) 安田川県単独河川改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

平成24年3月26日発行

編 集 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号
TEL 079-437-5589

発 行 兵庫県教育委員会
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 株式会社ソーエイ
〒673-0898 明石市樽屋町6-6
